

# 妊婦貧血の周産期に及ぼす影響に関する研究

岡山市立市民病院

高 知 床 志

## 研究目的

妊婦の貧血が新生児にどのように反映するか、いいかえると妊婦貧血と新生児との関連性がどのようにあるかということの研究である。

したがって本研究の目的とするところは、新生児において、その予後を最も反映すると考えられる、S.F.D., 未熟児, 新生児仮死, 胎内仮死 (fetal distress), 奇形, および新生児の相関性を追及することである。

今回は第1報として、この研究目的にそって検討を加えることにした。

## 研究方法

貧血の検査法としては、赤血球数, Ht, Hb, M.C.V., M.C.H.C.の検査を行った。検査の時期は妊娠のI, II, III trimester, 産褥退院時に行った。本論文においてはHb濃度を採用して検討を行った。

Hb値は $12.0g/dl$ ,  $11.0\sim 11.9g/dl$ ,  $10.0\sim 10.9g/dl$ ,  $9.0\sim 9.9g/dl$ ,  $8.9g/dl$ 以下の群に分割し、貧血のCriteriaは $11.0g/dl$ 未満のものとした。

妊娠貧血の決定にあたってはI-trimesterの初診時の所見を基準にし、その後のHbの変動には触れないことにした。それは、一般に妊娠の過程において貧血のあるものは治療され、又は環境その他の因子によってI, II, III trimester間のHb値は必ずしも相関の状態にあるとはいえず、寧ろ変化するものも相当あり、妊娠による貧血をどの時点でとらえて規定すべきか混迷をきたしやすい点に注目する必要があるからである。

このようにしてえられたHb値と、新生児に発現するS.F.D., 未熟児, 新生児仮死, 胎内仮死, 奇形, 周産期死亡の発生頻度を比較検討することにした。

## 検査成績

### 1) 検査材料

本院において入院分娩した1150例について前述の血液諸検査を施行し、これらの内でI-trimesterから, II, III trimester, 分娩, 産褥と一連の貧血の検査を洩れなく行った6例についてその成果を発表する。

表1は全例695列の平均Hb値と、そのS.D.と妊婦の実態を示し、次は抽出された新生児の6項目にわたるdistributionは233例となりその頻度とHb値の平均値S.D.とを併せて示した。

表 1. (Hb値)

	例 数	Hb mean	S . D.	%
I-trimester (全 例)	695	12.343	1.116	
SFD	52	12.471	1.165	7.428
Premature delivery (32~35W)	8	12.238	6.632	1.151
(36~38W)	51	12.482	1.057	7.338
新生児仮死	16	12.319	0.925	2.302
胎内仮死 (fetal distress)	60	12.447	0.802	8.633
奇 形	16	12.263	0.914	2.302
周産期死亡	10	13.380	0.863	1.439

233

2 研究成果

① S.F.D.について

表2はHb値を5つの群間に区割して、その中

に存在するS.F.D.発生の頻度を $\chi^2$ -testによつて検定した。その結果、Hb値が10.0~10.9 g/dlの貧血を示す群間で有意差

表 2.

全 妊 娠 (695)			S F D (52)		
Hb (g/dl)	例 数	%	例数	%	$\chi^2$
12.0以上	468	67.338	36	7.692	0.015
11.0~11.9	167	24.029	9	5.389	0.788
10.0~10.9	41	5.899	6	14.634	2.200
9.0~9.9	12	1.727	1		
8.0以下	7	1.007	0		

0.20 < P < 0.10

表 3.

(Hb)		SFD	$\chi^2$
(1 2.0 以上	4 6 8	3 6)	0.079
1 1.9 以下	2 2 7	1 6)	
(1 1.0 以上	6 3 5	4 5)	<u>1.381</u>
1 0.9 以下	6 0	7)	
1 0.0 以上	6 2 6	5 1)	0.181
9.9 以下	1 9	1)	
<u>0.30 &lt; P &lt; 0.20</u>			

が示され、その危険率は  $0.20 < P < 0.10$  であることが指摘された。

さらに表3によれば、Hb値の規密が頻度、貧血群と然らざるものとの区分による  $\chi^2$ -test から、

Hb 10.9 g/dl 以下のものに、有意差がみられ、その危険率は  $0.30 < P < 0.20$  で、信頼限界は約78%であることが分かった。

⑥ 未熟児について

i) 32~35週のもの

Hb値		未熟児		$\chi^2$
(1 2.0 以上	4 6 8	5	1.668%	0.017
1 1.0 ~ 1 1.9	1 6 7	3	1.796%	
(1 2.0 以上	4 6 8	5	1.068%)	0.084
1 1.9 以下	2 2 7	3	1.322%	

32~35週のものには有意差はない。

ii) 36~38週のもの

Hb		未熟児		$\chi^2$
12.0以上	468	33	7.051%	0.030
11.0~11.9	167	14	8.383%	0.170
10.0~10.9	41	4	9.756%	0.276
(12.0以上 11.9以下)	(468 327)	(33 18)	(7.051% 7.990%)	0.149
(11.0以上 10.9以下)	(635 60)	(47 4)	(7.402% 6.667%)	0.038

36~38週のものに有意差はない。

㉔ 仮死について

Hb		仮死		$\chi^2$
12.0以上	468	9	1.923%	0.183
11.0~11.9	167	6	3.593%	0.850
10.0~10.9	41	1	4.439%	
9.0~9.9	12	0		
8.9以下	7	0		
(12.0以上 11.9以下)	(468 227)	(9 7)	(1.923% 3.083%)	0.870
(11.0以上 10.9以下)	(635 60)	(15 1)	(2.362% 1.667%)	

仮死の発生頻度については有意差なし。

④ 奇形について

Hb		奇形		$\chi^2$
1 2.0 以上	4 6 8	9	1.9 2 3 %	0.1 8 3
1 1.0 ~ 1 1.9	1 6 7	6	3.5 9 3 %	0.8 5 0
1 0.0 ~ 1 0.9	4 1	1	2.4 3 9 %	
1 2.0 以上	4 6 8	9	1.9 2 3 %	0.8 7 1
1 1.9 以下	2 2 7	7	3.0 8 3 %	
1 1.0 以上	6 3 5	1 5	2.3 6 2 %	0.1 1 3 2
1 0.9 以下	6 0	1	1.6 6 7 %	

奇形の発生頻度について有意差なし

⑤ 胎内仮死 (fetal distress) について

Hb		胎内仮死		$\chi^2$
1 2.0 以上	4 6 8	4 2	8.9 7 4 %	0.0 3 4
1 1.0 ~ 1 1.9	1 6 7	1 7	1 0.1 8 0 %	0.3 2 8
1 0.0 ~ 1 0.9	4 1	1	2.4 3 9 %	
1 2.0 以上	4 6 8	4 2	8.9 7 4 %	0.1 7 9
1 1.9 以下	2 2 7	1 8	7.9 3 0 %	
1 1.0 以上	6 3 5	5 9	9.2 9 1 %	3.6 0 3
1 0.9 以下	6 0	1	1.6 6 7 %	

貧血群が1例のみあるので  $F=3.603$  の有意差がでたが、上段の  $\chi^2$  値には全く有意差がみられないことから、全体として胎内仮死の発生頻度と貧血との間には有意差はないものと断定しうる。

考 察

文献的に眺めても妊婦貧血の新生児に及ぼす影響に関する Data は極めて少く、なかに早産未熟児が発生しやすいという報告を散見するにすぎない。

昨今では妊娠中の貧血群では有効に治療が施行されているので、妊娠中の貧血の設定が実はむずかしく、数値的にも Hb 値の変遷もばらつ

きがあつて所謂疾患群としての貧血の「キャッチ」は極めて困難な現況といえる。

以上のことから本研究では、混迷をさけるために I - trimester 初診時の Hb 値  $1.0 g/dl$  未満のものを、とらえ貧血治療の有無にかかわらず、これら妊婦からの新生児から、色々の項目について検討した。

従つて今後は妊娠中の Hb 値の変動を見極め、貧血の治療にかかわらず依然として Hb 値が限界値以下の低値を与えるかをみる必要がある。

さらに本研究でえられた S.F.D. と妊娠中の母体貧血との関係については遺憾ながら文献にもその記載を見出しえなかつた。

S.F.D.の発生について、geneticのchangeは別問題として、妊娠中におけるfeto-and utero-placental circulatory disorder という一連の原因の中で、perinatal mal-nutritionの範囲のなかに貧血が入ることが許されれば、今後S.F.D.と妊娠中の貧血との間にあると考えられる因子を解明する鍵があるのではないかと考えるものである。

これらの点については今後の検討にまたれるところが大きいといえよう。

## 要 約

以上のことがらを検討した結果、妊娠中の妊婦Hb値が11.0 g/dl未満の所謂貧血群ではS.F.D.が20~30%の危険率、(信頼限界78%)で発生し、とくにHb値が10.0~10.9 g/dlの群間では10~20%の危険率でS.F.D.発生の可能性が示唆されたことになる。ただし提起された他の項目についての有意差検定では、妊娠中の妊婦貧血と新生児との間には有意差は全く認められなかった。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

#### 研究目的

妊婦の貧血が新生児にどのように反映するか,いいかえると妊婦貧血と新生児との関連性がどのようにあるかということの研究である。

したがって本研究の目的とするところは,新生児において,その予後を最も反映すると考えられる,S.F.D.,未熟児,新生児仮死,胎内仮死(fetal distress),奇形,および新生児の相関性を追及することである。